

(五)

消費組合を以て

昨今、労働組合内部に於ては消費組合の重要性を感じ、消費組合を以て  
 労働運動が現実化するに於ては、労働組合の積極的なる経済闘争が不利なる  
 其の職令には協同主義的方面の升ぶる本、戦闘的の方面がある。乃ち「第一に労働  
 組合運動の兵站部の充実に、之を通じて組合員夫人連の組織とある。ストライ  
 キに於ては、労働者の結束の固まるのは、いつも台所からである。サーベルの光も棍棒の  
 唸りも、白刃の閃きも覚悟を決めた四能業者の前には何等の権威に値しない。不貞、却つて  
 益々四能業者の意気も高まりのみのみだ。然るに、此の官吏の壓迫、反動団体の暴徒に  
 屈せぬ猛者連も、家へ帰り、空の米櫃を握りて、餓饉に迫つてゐる妻子の顔を見れば、  
 張りつめた勇氣も消えてしまふ。此の時吾等の消費組合があつて争議中の兵糧も引  
 けて呉れ、又之れによつて組織された夫人連が高志を激励してくれたらば、争議は  
 必ず勝利する。その他、消費組合を通じての協同戦線の形式、未組織大衆との接觸  
 及其組織、下層プケブルとの政治的提携等、挙げれば末れは其の職令は實に磨  
 び、吾等は吾等の戦闘力をより強大にする下めに、吾等の戦線とより擴大  
 する為めに、吾等は消費組合を作らねばならぬ。」(労働新聞、大正十五年七月  
 二十日)と云つて居る。

如斯く、消費組合を労働組合の兵站部たらしめんとする活動は、昨今より甚しく明と

かつて来た。

総同盟全國大會(大正十五年十月三日より五日)に於ては、「総同盟内消費組合設  
 置に関する件」(尼ヶ崎聯合會提出)を提案し、「この際、社会部の所制の下に消費  
 組合同盟組織準備委員会を設けて、該同盟の設置を促進するやうにしたい」とて、  
 満場一致可決したのである。従来総同盟関係の消費組合として、野田、鎌倉、大  
 崎、組合、野田利用購買組合(大正十二年争議の際、創立)及び総同盟関係の組合大  
 崎支部の大崎消費組合の二組合のみであつたが、本年七月頃より、河津川ヒメントの労働組合  
 が、田島消費組合と、連友同志會が、共働連の購買組合(大正十五年七月)を、五枝  
 田合同労働組合が、土崎消費組合會(大正十五年十月十日創立、出資額一十二万五  
 千円)に付金一円以上とす)を開始し、衆網労働組合、川崎支店、横浜工信會等  
 は、目下設立準備中であつたと云ふ。

総同盟関東同盟會理事會は、昨年八月二十一日関東に於ける総同盟関係消  
 費組合の統一を計るため同盟會事業部を充実に消費組合の統一の任に當らし  
 め、野田利用購買組合の主体たる関東釀造労働組合は、昨年七月十日の第四回大  
 會に於て「消費組合統一に関する件」を協議可決、各支部と連絡、共同購買を行